

第二節 工專費財源

本工專費ノ財源ハ國庫補助金、工專施行期間邊濠豫定地中有收獲地ニ對スル組合費賦課及借入金ヲ以テ之ニ充ツ

一 國庫補助金

大正九年度ヨリ昭和五年度迄十一箇年間に亘ル補助金額ハ二六、七四〇萬圓ニシテ、該補助金額ハ當初新設工專費ニ對スル五〇%即チ一二、〇〇〇萬圓ナリシモ、戦後ノ復舊工專費六五五、〇〇〇圓ニ對シテハ補助セラレザリシ爲、工四、〇八〇萬圓ニ改訂、更ニ二二六、七四〇萬圓ニ増額、結局國庫補助金ノ割合ハ四九%四トナレリ。

二 借入金

工專著手以來、工專資金トシテ組合ガ借入レタル金額ハ、昭和五年度末現在二千八百八万二千七百圓ニ及ビ、其ノ内同年度迄ノ償還額三百六十九万四千二百六十七圓ナルヲ以テ、猶ホ二千四百三十八万八千四百三十二圓ノ負債ヲ有ス。而シテ同年度末迄ニ支拂タル利子總額ハ四百三十四万三千二百六圓ナリ。

(4) 借入金現在高 (昭和五年度末現在)

借入先	起債額	年利率	契約年月日	償還		現在高	摘要
				元	金		
日本勸業銀行	300,000	2.5%	大正十二年七月三十一日	266,635	33,365	300,000	大正十二年度迄償還
	1,000,000	2.5%	大正十四年三月三十一日	666,000	334,000	1,000,000	昭和四年度迄償還
國庫	1,000,000	2.5%	昭和四年三月三十一日	866,667	133,333	1,000,000	昭和八年度迄償還
	1,000,000	2.5%	自大正十一年三月三十一日 至昭和四年三月三十一日	866,667	133,333	1,000,000	昭和四年度迄償還
合算	2,000,000	2.5%	自昭和四年三月三十一日 至昭和八年三月三十一日	1,733,334	266,666	2,000,000	昭和八年度迄償還
	2,000,000	2.5%	自昭和八年三月三十一日 至昭和十四年三月三十一日	1,733,334	266,666	2,000,000	昭和十四年度迄償還

昭和五年度末現在負債額八以上ノ如クナルモ、尙参考ノ爲昭和六年度以降借入ニ係ル最近ニ於ケル借入金現在高及利率等ヲ示セバ左ノ如シ

(一) 借入金現在高(昭和十年四月二十日現在)

用途		債		計	
借入高	償還高	現在高	利率	償還期間	
一、四〇六、〇〇〇	一、三二九、七二〇	一、二二六、三九六	六分五厘	自昭和五年度至廿三年度	内、外善ハ滞納書ヲ示ス
一、七〇七、〇〇〇	一、二九三、一一一	一、三六八、〇四八	五分五厘	自昭和九年度至廿三年度	滞納額内詳(元金 一、二二五、一五五 圓八三 利子 一、〇〇四、〇〇七)
一、三〇〇、〇〇〇	一、〇六五、三二九	一、四三三、〇四八	五分五厘		(元金 六六三、〇九四 圓三七 利子 七四三、三四四 圓八六)
一、八七三、五〇〇	一、四八八、二二七	一、六二四、七七二			(元金 三三七、二九四 圓三六 利子 四〇三、四七四 圓二七)
三、〇〇〇、〇〇〇	四、四九三、三三〇	三、三〇七、六九六	五分九厘	自大正十年度至昭和十年度	(元金 一、三二一、九四四 圓三六 利子 三、二五三、二二四 圓八〇)

摘要

内、外善ハ滞納書ヲ示ス

滞納額内詳(元金 一、二二五、一五五 圓八三 利子 一、〇〇四、〇〇七)

(元金 六六三、〇九四 圓三七 利子 七四三、三四四 圓八六)

(元金 三三七、二九四 圓三六 利子 四〇三、四七四 圓二七)

(元金 一、三二一、九四四 圓三六 利子 三、二五三、二二四 圓八〇)

借入當初利率六分五厘(該金額低利貸金)

昭和七年十二月一日以降五分九厘ニ低下

		新		銀行		營業		合計	
129210	129210	382015	129210	129210	129210	129210	129210	129210	129210
1	1	129210	129210	129210	129210	129210	129210	129210	129210
129210	129210	129210	129210	129210	129210	129210	129210	129210	129210
55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
自昭和十二年度	自昭和十二年度	自昭和十九年度	自昭和十九年度	自昭和十九年度	自昭和十九年度	自昭和十九年度	自昭和十九年度	自昭和十九年度	自昭和十九年度

借入當初利率六分五厘
 昭和五年十二月二日以降六分一厘二厘下
 借入當初利率 八分一厘(直接貸金) 昭和八年二月十五日以降七分七厘二厘下
 同年四月一日以降七分五厘二厘下, 同年十月一日以降七分三厘二厘下
 昭和九年四月一日以降六分五厘二厘下
 借入當初利率五分六厘(預金即借利貸金)
 昭和七年十二月一日以降五分二厘下
 借入當初利率五分六厘
 昭和七年十二月一日以降五分二厘下

合 計	外 以 設 新 圳 埤			
	銀 行 勸 業			
三三三三〇六二七	一三〇〇〇〇	三三〇〇〇〇	三三〇〇〇〇	一三〇〇〇〇
内 八九八三九八 三三三三三三 三六	三三三三三三 一七	三三三三三三 一七	一三〇〇〇〇 〇〇	一三〇〇〇〇 〇〇
外 三三三三三三 三三三三三三 三三	八九八三九八 〇〇	三三三三三三 〇〇	一三〇〇〇〇 〇〇	一三〇〇〇〇 〇〇
			五七	四九
			自昭和十一年度 至昭和十二年度	自昭和十三年度 至昭和廿七年度

工事 進行中 (自大正九年度 至昭和四年度) 組合費賦課並收納狀況

當初計畫及第一次、第二次改訂計畫組合費賦課豫定方針ハ、前述ノ如クナルモ、各年ノ實際賦課額ハ組合員農家ノ負擔能力、其ノ他經濟的實情ヲ斟酌決定セルモノニシテ、必ズシニ既定方針トハ一致セズ。

災 害 復 舊 費
昭 和 七 年 度 借 入
(直 接 資 金)
昭 和 九 年 度 借 入
借 入 當 初 利 率 七 分 三 厘
昭 和 九 年 四 月 一 日 以 降
六 分 五 厘 二 毫 下

(イ)臨時賦課金 ハ埤圳新設工事ニ充當スル爲、工事施行期間中完成部分ノ水利受益地ニシテ有收種地ニ對シ(大約一三万五千甲)賦課セルモノナリ

(ロ)維持費 ハ大正十三年以降埤圳新設工事完成シ、滄水開始セル部分ニ對シテ之ガ維持補修費ニ充當センガ爲、別ニ賦課徴收スルモノニシテ、灌漑當年ハ甲當五圓、二年目ヨリハ八圓トス本維持費目ハ工事完成後ハ水租トシテ徴收スルモノ

(ハ)特別負擔金 ハ昭和元年以降灌漑開始三年目以後ノ土地ニ對シ、工事受益ノ權衡上維持費以外ニ賦課スルモノ

(ニ)租入金 ハ中途無收種地ヨリ有收種地ニ變換セル土地ニ對シ、從來有收種地ノ負擔シ來ル臨時賦課金ノ相當額ヲ徴收スルモノナリ

尚收入未済額 ハ當該年度内ニ於テハ未納ニ終リタルモノニシテ、次年度ニ繰越徴收セルモノナリ、一部不納缺損額ヲモ含ム

(イ)組合費 ハ凡テ年二回ニ分納セシメ、前期ハ九月二十日、後期ハ

翌年二月二十五日即チ兩期共地租納付期限ト同一ナリ

(ロ)本圳ニ編入セラレタル區域内在來埤圳ノ維持修繕費ハ之ヲ當該埤圳組合關係員ヨリ別途徴收ニ係ルヲ以テ本表ニ含マス

右表ニ於ケルガ如ク累年組合員ノ賦課額ハ當初豫算ヨリ著シキ變改ヲ示セリ。之ガ變遷ノ梗概ヲ摘録スルコト左ノ如シ

大正九年度 臨時賦課金ハ當初計畫ノ通り一甲當十圓宛トシ、調定額百三十四万八千八百七十二圓七十五錢ニシテ、收入歩合〇、九七九ノ好成績ヲ得タリ。

大正十年度 前年度同様ノ賦課徴收ノ豫定ナリシモ、財界ノ不況、金融緩慢ノ折柄長家經濟狀態ヨリ在測シテ、甲當十圓宛ノ負擔ハ一般組合員ノ苦痛ヲスル慮ナルニ鑑ミ、工事費、事務費ヨリ十六萬圓ヲ捻出シ、之ニ前年度繰越金ヲ加ヘ計四十六萬圓ヲ臨時賦課豫算額百三十五萬圓ニ繰上テ差引八十九萬圓ヲ組合員ノ負擔トセリ。一甲當徴收額六圓五

大正十一年度ニ於テモ依然財界ノ不況去ラズト雖モ、糖價ノ暴騰ニ依リ幾分括氣ヲ呈シ、一般農家稍愁眉ヲ開クニ至リタル感アルヲ認メ、一甲當七圓ヲ賦課セリ。

大正十二年度ハ財界不況ニシテ依然曙光ヲ認ムルヲ得ザルノ狀況ニ鑑ミ、前年度甲當二圓ヲ減ジ五圓ヲ賦課セリ。又夏季近年稀ナル旱害ヲ被リ、農民ノ凶愆甚クシテ、收入歩合〇・九七多ノ不成績ヲ示セリ。

大正十三年度臨時賦課金ハ前年度同様甲當五圓ヲ徵收シ、尙埤圳新設工事完成シ本年ヨリ灌漑開始セル部分ニ對シテハ、之ガ維持補修ノ費先ニ充ツル爲、別ニ甲當五圓宛ノ既設埤圳維持費ヲ賦課徵收セリ。

大正十四年度前年度ト同様臨時賦課金及維持費共一甲當五圓トス。

大正十五年臨時賦課金及維持費ハ前年度ニ同シ。灌漑開始以後三年ヲ経過セル地方ニ對シ、本年ヨリ始メテ甲當十圓宛ノ特別負擔金ヲ課ス。

昭和二年年度臨時賦課金ハ前年度ト同シク一甲當五圓、埤圳新設工事完成シ、之ガ經費ヲ開始セル部分ニ對シテハ既定方針ニ基キ、別ニ維持

費ヲ賦課セリ。即チ本年度ニ於テ灌漑開始初年地ハ甲當五圓、灌漑開始二年目以後ノ土地ハ甲當八圓、灌漑開始三年目以後ノ土地ハ、工事ニ依ル受益ノ權衡上前記維持費八圓外ニ特別負擔金トシテ甲當十圓ヲ徵收セリ。

昭和三年年度 何レモ既定方針ニ基キ表示ノ如ク各其ノ種別毎ニ甲當賦課ヲナセリ。
昭和四年年度